

## 主な質疑応答

### 質問者 1

文字の大きさなどの視認性に問題があると分かったのですが、一方で外国からの来訪者が増える中で、近年は英語だけではなく、中国語やハングルなどにも対応しています。限られたスペースの中で色々な情報を入れるということは、文字を大きくすることと相反するかと思いますが、何か良い知恵があればお教え下さい。

講師(岩田氏)

表記の多言語化は必要だとは思いますが、中国人の学生に聞いたのですが、日本語と同じ漢字を使っているのに、何故表記しているのかという意見がありました。まだまだ整理できる余地があるのではないかと思います。文字があつてサインだと思われているのですが、空間があつてのサインだと思います。サインも建築や空間を設けてから設置するのではなく、一体となって最初から計画をしましょうということが大切です。そう思うように考えると、先ほど言った整理ももっと簡単になると思います。本当に四カ国語表記が必要なのか否かは、もう一度考えてもよいと思います。

講師(岡田氏)

サインとしては限定的に扱って、他のメディアから情報を補完できる、或いは位置情報から情報を補完できるような仕組みが必要かと思います。

講師(山名氏)

自分が外国に行った時のことを考えればよいと思います。海外には日本語表示なんてないです。しかし、向こうのサインでも何とかあります。四カ国語表記は必要ないと思います。ピクトグラムと矢印、そして必要な情報がアルファベットであれば良いと思います。

### 質問者 2

駅名の英語表記について、一般的にはローマ字表記をしていますが、「神戸空港」駅は、「kobe airpoot」と表記しています。訪日外国人への見せ方としてどちらが分かり易いのでしょうか。今後多言語対応して行く中で方向性を教えて頂ければと思います。

講師(岩田氏)

例えばニントク寺という寺があつて、「nintokuji」「nintokuji temple」「nintoku temple」というようなことが考えられます。日本人にとっては「nintoku temple」ではパツと響きません。外国人にとってはやはり英語表記が一番通じると思います。

講師(岡田氏)

固有名詞の部分はローマ字表記だと思います。寺や神社の場合では、後に「temple」や「shrine」を付けるケースが殆どだと思います。

講師(山名氏)

駅員や日本人に聞いた時に、全部英語にすると通じなくなります。エアポートなど誰でも分かるものはそうしてもよいでしょうが、そうでないところは日本語表記を考えればよいのではないのでしょうか。

コーディネーター(三星氏)

バリアフリーの考え方においても、新しい段階での課題が出て参りました。この10年間頑張ってきた日本も、香港や台北に比べると、エレベーターの大きさやサインの分かり易さにおいて、周回遅れのような状態になっています。これは大きな問題で、日本は

これに満足しては駄目です。アジアの中で取り残されるというようなことはあってはならないです。ホテルでバリアフリー情報の載ったタウンマップを欲しいと言って、出て来る街は世界中を見てもまずありません。これが大阪で出来れば凄いことだと思います。また、本日の議論の中で名前が無いエレベーターがあるということに驚かされました。駅に名前が無いのと同じですから、大変な問題だと思います。

コメンテーター(石塚氏)

沢山ご質問を頂いてディスカッションがあれば、もっと色々なアイデアも出て、問題解決に繋がったかと思います。アンケート票の自由回答欄がありますので、現場ではこんなことに困っているというようなことをご記入頂ければ、今後の議論の参考とさせていただきます。